

## 国際大ダム会議 第80回年次例会および第24回大会の開催

ダム技術に関して、国際的に指導的役割を果たしている国際大ダム会議の第80回年次例会および第24回大会が、京都市で開催された。京都大会の会期は、6月2日(土)～8日(金)の7日間で、前半は京都ホテルオークラ、後半は京都国際会館を会場として行われた。京都大会は「水の世紀の諸課題及び地球温暖化への対応」をテーマに、ダム技術に関する最新の知見を共有することを目的とした。世界70カ国から電力会社の技術者を始めとするダム関連の技術者1,367名(内、日本から408名)が参加し、若年層の技術者(35歳未満)も161名参加した。

年次例会は毎年開催されており、日本では1960年に第27回執行理事会、1984年に第52回総会(いずれも年次例会に相当)が東京で開催されている。一方、3年に1度、あらかじめテーマを設定し集中的な討議を行う大会に関しては、古くからの加盟国であったにも関わらず、開催実績はなかった。加盟国からも開催を要望する声が届けられ、前回の2009年ブラジル大会において今回の京都開催が決まった。

京都大会の主要行事としては、以下の通りである。

### 【第80回年次例会(6月2日～5日)】

- ・6月 2・3日:技術見学会
- ・6月 4日:技術委員会
- ・6月 5日:年次例会総会、国際シンポジウム

### 【第24回大会(6月6日～8日)】

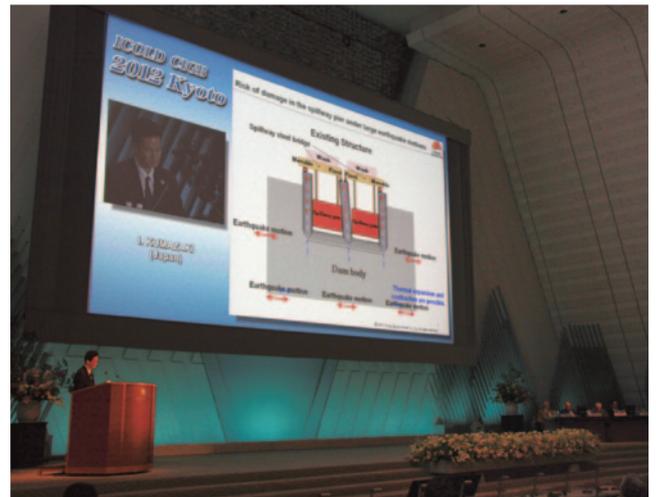
- ・6月6～8日:課題討議



年次例会総会の様子

年次例会行事の中で、21の技術委員会の一つである貯水池堆砂委員会は代々当社が国際委員を務めている。その他に、当社からは国際シンポジウムのポスターセッションにおいて2編、課題討議No.95 (AGEING AND UPGRADING)において1編の発表を行った。

	TITLE	AUTHOR
国際シンポジウム	Improvement of the Habitat of Sweet Fishes by Using Silica-supplemented Concrete in River Structures	Yosuke SAWAI
	Transfer of Knowledge and Technology on the Examination and Inspection of Dams for the Lao People's Democratic Republic (Lao PDR)	Yasuhiro KAWAKAMI 他
課題討議	Development of Seismic Upgrading Method of Spillway Piers on Dams Based on Utilization of Existing Spillway Bridges	Ikutaro KUMAZAKI 他



課題討議No.95での発表

### 【国際大ダム会議とは】

#### International Commission On Large Dams(ICOLD)

国際大ダム会議は、1928年にフランス・イギリス・イタリア・スイス・ルーマニア・アメリカの6カ国で設立された民間国際団体である。本部はパリにあり、現在の加盟国は95カ国である。

ダムの構造基準、管理基準等の技術面で世界の指導的役割を果たしており、現在も多くの国でダムの設計、維持管理等に活用されている。日本においても1970年代以前は、ICOLD基準に準拠した日本大ダム会議の基準等に従ってダムの設計等を進めていた。